地域と大学を結ぶ広報誌

城西

Vol.29
2019.9

2020東京五輪ホストタウン

鶴ヶ島市にミャンマー選手団本学で歓迎交流会

新シリーズ ゼミ登場

薬用植物の成分差違を新分析手法で発見（天然物化学研究室）

「ジェンダー」から「スポーツ文化」まで多角的、多層的に学ぶ（山口ゼミ）

23号館建設へ　開放空間を交流ハブに

城西大学
城西短期大学
坂戸キャンパス
東京紀尾井町キャンパス
https://www.josai.ac.jp

城西 Vol.29 2019.9

目次

02 23号館建設へ 開放空間を交流ハブに
ときがわ町と 相互連携協定を締結
同窓会50周年記念式典
男子駅伝部 越生中駅伝部を指導
交換留学生5人が鶴ヶ島西中で講師に

04 鶴ヶ島市に ミャンマー選手団 本学で歓迎交流会
樋口建史前ミャンマー大使が講演
中国古典劇「昆劇」を上智大と共催

05 コミュニケーション体験演習
紀尾井町キャンパスで日本法政学会が総会
大連外語大軟件学院が本学を表敬訪問
上原育英奨学金 17人に授与

06 [新シリーズ]ゼミ登場
薬用植物の成分差違を新分析手法で発見（天然物化学研究室）
「ジェンダー」から「スポーツ文化」まで 多角的、多層的に学ぶ（山口ゼミ）

07 [新シリーズ]フォーカス
同級生バンド「鶴」
城西川越中学高等学校

08 [シリーズ]先輩訪問
藤野翔太郎さん、向坂代悟さん

09 [シリーズ]図書館だより

10 [新シリーズ]美術館通信
展覧会開催報告
モバイルミュージアム展示替え

11 [エリア紹介]
日高市 日高市民まつり
毛呂山町 毛呂山町産業まつり
東武線沿線情報 電車に乗って SAITAMAプラチナルートを巡ろう!

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙

JUカフェで開かれたミャンマー選手団の歓迎交流会。白幡晶学長や草野素雄短大学長をはじめとする教職員のほか、陸上競技部や柔道部などの学生たちが参加して選手団を歓迎しました。交流会の最後には全学應援團チアリーダー部によるパフォーマンスとエールで選手団を激励し、大きな拍手を受けました。

23号館建設へ 開放空間を交流ハブに

2020年着工 23年秋竣工

全景

大学正面からシンボルである清光会館へつながる"城西の顔"が生まれ変わります。既存の1、2、4号館と実験センターの機能を引き継ぐ新複合棟「23号館」は来年春以降に着工の運びとなります。2023年秋の竣工を目指します。

建築概要は、鉄筋コンクリート造7階建て、延べ面積2万1000平方㍍となっています。

最大の特色は、1階部分をすべての面に開放した空間として、学生や教職員、地域との交流の接合点「ハブ」としての機能を持たせることです。大きな庇（ひさし）の下のひとつながりの空間「JOSAI HUB」には、アクティブラーニングやプレゼンテーション、カフェ、ワークショップ、グループ学習など多様な学びの形に対応した学習スペースや学生の居場所を備えます。

庇の上には3つのエリア（東・中央・西）から成る教室・研究施設を配置。理学部の実験室や演習室、研究室のほか、共用の講義室などを設けます。教室効率に配慮しつつ、東と西側のエリアは吹き抜けが緩やかに上下階を繋ぎ、廊下は学生の居場所としても利用できる明るく気持ちの良い空間とします。また、庇部分はルーフテラスとして、授業や研究で使用できるほか、憩いの場としても活用してもらいます。

開かれた空間「JOSAI HUB」

キャンパス入り口には門やゲートを設けず、文字通り地域に開かれた大学を目指します。また、守衛室は車路、歩道両方に面して設置することで学生の安全を守るとともに、バスロータリーからは雨に濡れずに「JOSAI HUB」にアクセスすることが可能となります。

同窓会50周年記念式典

全国から500人参加 半世紀の節目祝う

2019 4.20

同窓会の創立50周年記念式典が4月20日、東京都豊島区のホテルで開かれました。同窓会には全国38支部の同窓会員約500人をはじめ、上原明理事長や白幡晶学長ら教職員、関係者が参加。半世紀の節目を祝いました。

鈴木文雄同窓会長は挨拶で、「今や城西大学は全国780大学の中で、学生数で上位10%に入る総合大学になり、会員8万5000人の同窓会は各支部で活発に活動しています。50周年を機に大学の発展に感謝するとともに、同窓会が心を一つにして大学に貢献できるような体制を再構築したいと考えています。創立100周年に向けてさらなる会員の皆さまのご支援をお願いします」と述べました。

来賓祝辞で上原理事長は、懸案だった川角駅周辺整備に触れ「東武鉄道と毛呂山町との話し合いがついて、21年度末までには学生さんの安全が確保されるのではないか」と述べました。さらに、「水田三喜男先生は『いい社会は立派な人格の人からつくられる』とおっしゃっています。世代が変わろうという今の時代、もう一度、日本全体が、城西大学がやらねばいけないと考えております。本日の50周年を一里塚として皆さんとご一緒に頑張りたいと思います」と述べました。

鈴木同窓会長から白幡学長への新大学旗の授与

また、白幡学長は「長きにわたる皆さまの献身的な活動と母校を思う深い愛情に心から敬意を表したいと思います。皆さまからいただいたご恩は、本学に集う若者たちを、次世代を担う同窓の仲間として大きく育て、本学をこれまで以上に自慢できる存在にすることによってお返ししたい」と語りました。

パーティーは、付属川越高校の和太鼓「欅（けやき）」の勇壮な演奏でオープン。プロ野球埼玉西武ライオンズの辻発彦監督のビデオメッセージの披露やライブ演奏、全学應援團チアリーダー部の学歌斉唱とエールもあり、会場では旧交を温め合う会員の姿があちこちで見られました。

ときがわ町と相互連携協定を締 結

薬学部プロジェクト「Tokigawa-Study」がきっかけ

2019 7.16

城西大学は7月16日、ときがわ町と相互連携協定を締結しました。薬学部医療栄養学科（管理栄養士養成課程）が、ときがわ町保健センターと協力して昨年から実施している「ときがわ食と栄養プロジェクト」（Tokigawa-Study）がきっかけとなりました。この日、白幡晶学長と渡邉一美町長が協定書にサインしました。これで連携協定を結ぶ自治体は、坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、越生町、毛呂山町、東京都千代田区に次いで7番目となりました。

「Tokigawa-Study」は今年も5月から6月にかけての6日間、町体育センターなどで展開しました。同センターと協力して、健康診断を受診している町の人たちを対象にした食習慣と生活習慣に関するアンケート調査を実施。健康診断の会場では、「減らそうよ！塩分」と「とろうよ!野菜」をテーマにした日々の食生活でのひと工夫を伝える健康食育教室を実施しました。管理栄養士資格を持つ大学院生11人が、意見を出し合ってアンケートやポスターの作製を行い、当日はアンケートの回収と健康食育教室のプレゼンターを務めました＝**写真**。

男子駅伝部 越生中駅伝部を指導

地域連携事業の一環で初の試み

2019 7.30/8.30

男子駅伝部が7月30日、総合グラウンドで埼玉県中学校駅伝大会出場を目指す越生中学校の駅伝部に走法などの指導をしました＝**写真**。地域連携事業の一環による初の試みで、8月30日には越生中学校を会場に指導が行われました。

7月30日に参加した生徒は、陸上部やサッカー部、野球部など約50人。同校では合同で駅伝部を構成して大会に参加するそうです。

指導は午前8時から2時間行われました。5人の男子駅伝部員が体操から始まり、動き作り、サーキットトレーニング、300㍍5本のインターバルなどを指導。生徒たちは熱心に練習に取り組んでいました。

練習後は質問の時間もあり、「食事はどんなことに気をつけていますか」などの質問に部員たちは丁寧に答えていました。

交換留学生5人が鶴ヶ島西中で講師に

母国の文化や特徴を紹介し交流深める

2019 6.28

鶴ヶ島市立西中学校が6月28日、授業の一環として行った「国際教育理解講座」に本学の交換留学生が招かれ、それぞれの国の文化などを紹介しました。今回訪問したのは、ハンガリーと韓国からの交換留学生計5人。

各クラスでは学級委員が司会進行を務め、最初に留学生が自己紹介をし、母国の文化や特徴について紹介をしました＝**写真**。中学生は興味津々といった様子で、メモを取り、笑い、熱心に話に耳を傾けていました。質問の時間では、それぞれの国への質問のほか、留学生本人への率直な質問もあり、和やかで楽しい授業となりました。留学生は1人当たり3クラスを巡回、それぞれのクラスで異文化交流を深めました。留学生たちにとっても、母国の歴史や文化を紹介し、中学生の質問からの質問に答える中で、昨年秋からの留学を振り返る有意義な時間となりました。

終了後しばらくして、中学校の生徒から、参加した留学生たちへお礼の意味を込めて手作りのメッセージカードが届けられました。留学生はひとつひとつのメッセージを読み、母国に興味を持ってくれたことをとても喜んでいました。

2020東京五輪ホストタウン

鶴ヶ島市にミャンマー選手団 本学で歓迎交流会

2019 8

学生らと合同練習　市民とも交流

2020東京五輪に参加するミャンマーの選手団が8月下旬から9月にかけ、事前キャンプでホストタウンの鶴ヶ島市を訪れ、市民と交流するとともに城西大学の総合グラウンドや格技室（柔道場）で練習をしました。

一行は陸上競技と柔道の選手9人と監督・コーチの計11人。8月26日に来日。27日は本学を訪れ、歓迎交流会に参加しました。歓迎交流会では白幡晶学長が、鶴ヶ島市がホストタウンになった経緯や本学とミャンマーとの浅からぬ縁を紹介した後、「昔からの友達の家に来たと思っていただきたい。本学のキャンパスで行う練習が来年のオリンピック参加に有意義なものになることを願うとともに、ミャンマーと日本、地域、本学の友好がさらに深くなることを期待したい」と歓迎の挨拶。一行を代表して陸上競技のキンキントウェ監督が「城西大学で練習する機会を与えていただきありがとうございます。今回の事前キャンプがオリンピックで実になるよう頑張っていきたいと思います」と感謝の言葉を述べました。司会進行・通訳はティティレイ客員教授が務めました。午後はさっそく、本学の学生らとの合同練習をして汗を流しました。また、28日は午前の合同練習の後、午後は日本スポーツ協会公認スポーツ栄養士の医療栄養学科、伊東順太助教によるスポーツ栄養学の講義に参加しました。

来学したミャンマー選手団と留学生ら

総合グラウンドを視察する選手たち

医療栄養学科による講義

一行は31日まで午前は本学で合同練習。午後は東京都内視察や市民との交流イベントなどに参加。9月2日の離日を前にした1日は、同市の伝統行事「脚折雨乞」とミャンマーの国民的水かけ行事「ダジャン」を融合した「鶴ヶ島水かけまつり」に参加。市民や関係者と交流を図りました。期間中、本学と城西国際大学のミャンマーからの留学生6人が事前キャンプをサポートしました。

樋口建史前ミャンマー大使が講演

2019 5.24

「ミャンマー ―近年の政治・経済情勢について―」

ミャンマーの前大使の樋口建史氏の講演会が5月24日、水田三喜男記念館講堂で開かれました＝**写真**。鶴ヶ島市が2020東京オリンピック・パラリンピックでミャンマーのホストタウンとなり選手たちが本学のグラウンドなどの施設を利用することになったほか、昨年2月には科学技術振興機構のさくらサイエンスプランに採択されてヤンゴン大学の若手理系教員が本学を訪れて研究交流を行うなど、本学とミャンマーとの関係が深まっています。

樋口前大使は「ミャンマー ―近年の政治・経済情勢について―」と題して講演。ミャンマー国家の説明をはじめ、「最後のフロンティア」と呼ばれるようになった歴史的な流れなどを概観。アウンサンスーチー氏の親日観のほか、発達著しく活気にあふれた街の様子やインフラ整備への日本の取り組み、さらには教育の取り組みなど興味深い話を披露されました。会場では学生や教員が熱心に聴き入りました。

中国古典劇「昆劇」を上智大と共催

2019 6.1

トップクラス俳優陣が「牡丹亭」演じ観客魅了

本学と城西国際大学、上智大学の共催で中国の古典劇「昆劇」の公演が6月1日、上智大学四谷キャンパスで開かれました。今回の公演は、一層の日中文化交流の促進を目的とした「大学交流訪日公演」として、北京市政府の尽力により中国の代表的な昆劇団体である「中国北方昆曲劇院」の派遣が実現して開催されました。

公演では、中国トップクラスの俳優陣によって昆劇の最高傑作ともいわれる「牡丹亭」が上演され、その美しく優美な芸術表現や世界観で、会場に詰めかけた約600人の観客を魅了しました。

上演に先立ち、紀尾井町キャンパス1号棟ホールでは昆劇特別講座も開催されました。昆劇に出演する俳優による昆劇の歴史や特徴などの解説＝**写真㊤**＝のほか、学生への演技指導も行われ＝**写真㊦**、参加者や学生にとって貴重な機会となりました。

コミュニケーション体験演習

医療現場・地域で課題解決に取り組む

薬学部薬学科の4年生の必修科目である「コミュニケーション体験演習」が今年度も始まっています。アクティブ・ラーニングであるコミュニケーション体験演習は、専門的な知識や技能だけでなく、コミュニケーション能力を基礎として、医療現場や地域コミュニティでさまざまな人たちと関わり合いながら課題解決に取り組むことができる総合力を身につけてもらおうと昨年度から始まりました。

コミュニケーション体験演習は、通年集中科目という位置づけで、活動時間は時間割に明記されず、時間割の空いている時間や時間割外の時間を利用してプロジェクトを実行していきます。昨年度は「オープンキャンパス学生企画」「リレー・フォーライフ・ジャパン川越」「城西健康市民大学プログラム実施」「埼玉県薬剤師会“薬と健康の週間”」「多職種連携教育サポート」「経済学部・勝浦ゼミとのコラボレーション」の6つのプロジェクトで実施。今年度は新たに「小児がん支援のための募金活動」「介護老人保健施設との連携」を含めた7プロジェクトを実施予定で、6月からプロジェクトごとにミーティングを開始、具体的な活動の立案に入りました。

来年1月ごろまで、プロジェクトごとに活動を展開した後、2月ごろにプロジェクト内容を共有するための全体発表会、3月ごろに活動の評価を予定しています。

紀尾井町キャンパスで日本法政学会が総会

2019 6.22～23

シンポジウム「児童虐待防止の法と政策」も同時開催

日本法政学会の第130回総会と研究会が6月22、23の両日、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで行われました。同学会は法学、政治学とその学際領域に関する研究を促進し、会員相互の学術向上を図ることを目的としています。今回は事務局長である松尾民雄・現代政策学部教授が開催校幹事を務めました。

22日午後は、最近大きな社会問題となっている児童虐待をテーマにしたシンポジウムが、現代政策学部との共催（文部科学省後援）で開かれました＝**写真**。「児童虐待防止の法と政策―教育委員会と児童相談所のかかわり方を念頭に―」とのタイトルで進められたシンポジウムは冒頭、東海大学の廣瀬真理子氏が企画の趣旨を説明。続いて、法人本部理事長特別補佐の小野元之理事が「教育委員会の改革」とのテーマで基調講演を行いました。小野理事は、平成27年度から新しい教育委員会制度を始まったことを受け、教育委員会に関する従来からの課題と今後に展望について話しました。その後、政策提言に向けて教育法や教育学の専門家も交えたパネルディスカッションと質疑応答が熱心に行われました。

大連外語大軟件学院が本学を表敬訪問

2019 7.25

運動部の練習、学内施設の見学も

7月25日、海外姉妹校の大連外国語大学軟件学院から謝広宣党書記（学部長）と留学送り出しの責任者の劉鵬先生の表敬訪問を受けました。大連外国語大学とは長い交流の歴史があり、2008年から共同プログラムの留学生を多く受け入れています。お二人は初の本学訪問で、留学先である本学のキャンパス環境や同大学からの留学生の勉学、生活の様子を視察されました。

本学からは白幡晶学長、于洋国際教育センター所長のほか、国際交流に携わる担当者らが出迎え、留学生も交えて歓談しました＝**写真**。キャンパス見学では、総合グラウンドで男子駅伝部の櫛部静二監督、五十嵐信吾コーチらと面談し、運動部の練習も見学。また美術館での特別展示を鑑賞したほか、学生食堂や学内の施設も見学されました。

上原育英奨学金 17人に授与

2019 7.19

入学後経済的理由などで修学が困難な学生の支援を目的にした「学校法人城西大学上原育英奨学金」の授与式が7月19日、行われました。昨年度は「経済支援特別給付奨学金」の名称でしたが、上原明理事長が資金を拠出され、拠出金も増額されたことから名称が改められました。

今年度は城西大学16人、城西短期大学1人の計17人に奨学金が給付されました。授与式では、白幡晶学長と草野素雄短大学長が奨学生証を代読し、授与学生に一人ひとり手渡しました。白幡学長からは、この奨学金が生まれ大きくなった経緯の説明があり、奨学金は修学資金の一部であるが、それ以上の意味を見いだして自己の達成に向けて励んでもらいたいとの言葉がありました。

ゼミ登場

天然物化学研究室　鈴木 龍一郎 准教授

薬用植物の成分差違を新分析手法で発見

生薬の成分研究などを手掛けているのが、薬学部薬科学科の鈴木龍一郎准教授による「天然物化学研究室」です。薬用植物を材料に天然有機化合物の探索をはじめ、医薬品・食品・化粧品原材料の品質評価、そして薬用植物園を活用した薬用植物の栽培と、研究分野は多岐にわたります。2012年には、薬用植物クララの成分に日本産と中国産では違いがあることを新しい分析手法で発見しました。

大学院生4人、学部4年生10人、早期配属生4人の18人。学生には研究を通じて新しい事象を発見する喜びと楽しさを実感することを期待。そのために自然観察を重視し、物事を論理的に考え、問題を解決する能力などを育むことも期待しているといいます。特に社会還元性の高い研究に注力、将来、社会に貢献できる人材の育成に心掛けています。

フィールドワークとして日本生薬学会関東支部が6月と10月に行う植物観察会に参加。9月は日本生薬学会年会で研究発表。8月には研究室旅行を行うほか、4月には他の研究室との合同バーベキューを行い、親睦を図っています。今年からは、東日本大震災で被災した宮城県山元町で栽培される伊達むらさき（スイゼンジナ）の成分についても調査を開始し、研究を通して復興支援活動にも参加し始めました。

「先生の人柄を知り、漢方にも興味があって研究室を選んだ」という修士1年の佐野愛子さんは「将来は研究者として大学で活躍したい」との希望。学部4年の見沢沙瑛さんは「化学より生物が好きで選んだ研究室ですが、実験結果の考察をするのが面白くて実験ってこんなに楽しいんだと思えたのが収穫」と話します。

鈴木准教授は「大学で興味あることをやるのはもちろんですが、その成果として社会に還元できるようになることが大切。研究は面白いと思ってくれる学生が増えてくれたらうれしい」と語り、研究に興味のある学内学生の見学も歓迎しています。

前列左端が鈴木准教授

山口ゼミ　山口 理恵子 准教授

「ジェンダー」から「スポーツ文化」まで多角的、多層的に学ぶ

「ジェンダー論」「スポーツ文化論」が専門の経営学部の山口理恵子准教授は、各学年で「山口ゼミ」を展開しています。今年の3年生対象のゼミ生は、ハンガリーからの留学生を含め21人。テーマが「スポーツ文化批評」とあって、陸上競技部や男子駅伝部の学生も学んでいます。4月から導入的な講義や日本のスポーツ政策のビデオを見た後、著作を対象にした学習に入りました。

7月3日のゼミでは、五輪バブルの実態を暴いたとして米国で話題となった『オリンピック経済幻想論』（アンドリュー・ジンバリスト著／田端優訳、ブックマン社刊）を分担して読み込み、五輪を開催することの利点の一方で、財政コストや人的損失、環境破壊など負の部分もあることを学びました。山口准教授は学生に向けて「単なるメディアの受け売りではなく、メディアの情報をどう受け止め、どう発信するか、そうした力を養ってほしい」と話し、競技をしている学生には「注目される選手はメディアトレーニングを受けてほしい。そして自分のメッセージをどう伝えるか考えてほしい」と呼びかけました。

後期には、グループワークに入り、年明けには他大学との合同研究、合同発表会を予定しています。陸上競技部員でゼミ長の山﨑久徳さんは、卒業後は消防や警察、海上保安庁関係に進みたいとの希望を持っています。「社会に出るうえで必要な知識や考え方をジェンダー論やスポーツを通して学んでいます。男女や人種に関係なく寄り添い、助けられる人になりたい」と抱負。山口准教授は「物事を多角的、多層的に見ていく必要性を伝えるとともに、メガイベントではないスポーツの価値についても考えていきたい」と話しています。

後列左から5人目が山口准教授

フォーカス

連携協定を結んでいる近隣自治体と付属高校のトピックスを紹介するシリーズ「フォーカス」。今号は、鶴ヶ島市立西中学校の同級生3人で結成したバンド「鶴」と城西川越中高等学校の英語教育にフォーカスしました。

鶴ヶ島市「ふるさと応援大使」に任命

同級生バンド「鶴」

左から笠井さん、秋野さん、神田さん

「鶴」は、秋野温さん（ボーカル、ギター）、神田雄一朗さん（ベース）、笠井“どん”快樹さん（ドラム）の3人。いずれも37歳。高校時代に市内の公民館で腕を磨き、2003年にバンドを結成し、2008年にメジャーデビュー。ライブパフォーマンスで人気を博し、多くの著名なアーティストと共演しているほか、映画やアニメの楽曲を手掛けるなど多方面で活動しています。昨年9月に鶴ヶ島市の「ふるさと応援大使」に任命されました。10月6日には初の「鶴フェス2019」を鶴ヶ島市運動公園で開きます。

――バンド結成のきっかけとバンド名の由来は？

「20歳過ぎに神田と笠井が別のバンドをやっていまして、ギターが欲しいということで高校以来、3人が集まりました。アルバイトしながらのバンド活動でしたが、楽しいというのが一番でした」（秋野さん）　「最初は中学校の略称の『鶴西』にしようと言っていたんですが、すっきりさせようと『鶴』にすんなり決まりました」（神田さん）

――「ふるさと応援大使」に任命されました。

「全国回って『なんで鶴なんですか』と聞かれるたびに埼玉県鶴ヶ島市の出身と言いまくってきたので、いよいよという感じでした」（秋野さん）　「親とか地元の友達がすごく喜んでくれました。とりあえず親孝行はできたのかと」（神田さん）　「ふるさとに還元できるものがあるということは嬉しいことです」（笠井さん）

――鶴ヶ島市の魅力は？

突出したオリジナリティーはないんですが、独特の丸い感じのアイデンティティーがあると思います」（笠井さん）　「ほどよく田舎で、ほどよく都会に近い絶妙な場所ですね」（秋野さん）　「独特のゆったりしたオリジナリティーがある気がします」（笠井さん）

――「鶴フェス」と今後の音楽活動への抱負をいただけますか。

「結成16年目で地元に恩返しができます。独自のバンドの世界観が出てきている気がします。20年、25年続けられるよう全国をぐるぐる回り続けたい」（秋野さん）　「フェスを機にもっとバンドを認知してもらえるよう活動していけたら」（笠井さん）　「鶴フェスには、ソウルメイトと呼んでいるお客さんが全国から来てくれるので、ゆったりとした居心地のいい感じを味わっていただきたいと思います」（神田さん）

国際化を見据えた英語教育

城西川越中学高等学校

城西川越中学高等学校では国際化を見据えて英語教育に力を入れています。今年の夏休みにも高校1年の58人がカナダでの2週間の海外研修に参加しました。参加者は2人1組でホームステイし、午前中は英語の授業、午後は乗馬やカヌーなどを体験しました。7月下旬には2クラスに分かれ、同校で10年以上のキャリアがあるアメリカ人のジミー・テトゥアヌイ教諭とカナダ人のダニエル・ウエルエンド教諭による事前研修がありました**＝写真**。

異文化理解やコミュニケーション能力を高める留学制度は30年以上の歴史があります。6年前からは中学3年の特別選抜クラスの生徒によるオーストラリアへの35日間留学を開始。総合一貫クラスの生徒を対象にした10日間の短期留学制度も今年1月にスタート、全員が中学のうちに海外で学ぶことを経験しました。高校では、来年1月に希望する高1生を対象にオーストラリアに3カ月、半年、1年間と3コースの長期留学制度を始めます。

2人の外国人専任教諭はオリジナルの英語テキストを作成、中学ではゲームと演劇、高校ではスピーチを通じた実践的な英語授業を展開しています。毎朝20分の英語リスニングのほか、全学年を対象にスピーチコンテストも開催しています。「言葉（英語）は道具の面もありますが、それを獲得することで視野が広がり、思考力を高めていく側面もあります」と話す英語科主任の薄羽貴統教諭。「英語を獲得することは、生徒たちが実り豊かな人生を進むためにはとても有効な手段。英語を強みにして、生徒たちが前に進むことができたら、私たちにとって一番うれしいことです」と語っています。

先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」今回は2016年卒業の藤野翔太郎さん（26）と向坂（さぎさか）代悟さん（26）の若い2人に登場いただいた。2人とも海外志向が強く中欧の国に留学経験があり、藤野さんはチェコのIT企業の日本法人に勤務するかたわらパーソナルトレーナーとしても活動。向坂さんは保育園を経営する社会福祉法人の広報部長の肩書を持つとともに歌手活動も。2人とも将来は起業家の夢を持っています。

左が藤野さん、右が向坂さん

〝粋（いき）〟な大人へと挑戦し〝突き抜ける〟

藤野翔太郎（ふじのしょうたろう）さん（26）、向坂代悟（さぎさかだいご）さん（26）
2016年（経済学部卒）　2016年（現代政策学部卒）

――2人が出会ったきっかけは?

（藤野さん）「高校生の時にアメリカとイギリスに行っていて、もともと海外志向があり、入学後は英語のディベートクラブを主にやっていたんですが、留学生をサポートする学生組織がないねと、サポートするクラブを立ち上げたんです。そこに向坂君が入ってきたのが知り合うきっかけでした」

（向坂さん）「城西には硬式野球部で入って、2年目からは違う道に行こうと部活をやめました。海外交流をしている藤野さんを見て、かっこいいなと思い、自分はその背中を追うような形になったわけです」

――学生時代の最大の思い出は?

（藤野さん）「2年目に1年間休学して、ケンブリッジにある語学学校に留学し、復学した3年目はプラハ経済大学に1年間交換留学生として行きました。大学の50周年記念事業で知り合い、その後プラハ経済大学の学長になった先生のお誘いで2016年9月から2年間、大学院に留学しました。数理経済学をやっていたので、統計などの数学的なスキルと知識が今のIT系で生かせています。2年間みっちりやって良かったと思います」

（向坂さん）「野球じゃない学生生活になった2年生の時に聞いたのが、交換留学でハンガリーに行く学生がいないということ。他の大学ではなかなかできないハンガリーへの留学をめざして1年間は英語の勉強に打ち込み、3年生の時にブダペスト商科大学に1年間留学しました。同室のルーマニアからの留学生やブラジル、イタリア、イギリスなどからの留学生とも親しくなり、なにより度胸がついたというか、精神的な面で強くなったと思います」

――現在はどんな仕事を?

（藤野さん）「大学院2年生の時にチェコのIT企業にインターンとして入社。昨年12月に日本法人に異動しました。オフィスは大手町にありますが、eコマースなのでオンラインで仕事ができ、オフィスに出社する必要がありません。私はフィットネスや筋トレに興味があって、趣味を仕事にしたいというマインドもあるので、空いた時間を利用してパーソナルトレーナーもやっています。ヨーロッパでは起業している学生も多く、留学で起業家精神を学びました。自分のスキルを磨いて自分でお金を稼ぐ。将来は趣味を仕事にして自由な働き方ができればと思います」

（向坂さん）「卒業後は1年間、不動産会社に勤め、宅地建物取引士の資格も取りましたが、今は愛知県名古屋市の社会福祉法人の広報部長をしています。高校時代の友人の仕事を手伝いに名古屋に行って、そこで保育園を経営している理事長先生と知り合いました。起業したいという夢を語ったら、『それなら、うちで働かないか』と。ユーチューブで見た歌手の沢田研二さんがかっこよく、歌うことで園児とお爺ちゃん、お祖母ちゃんの間もつないでいます。ディナーショーもやりますが、歌手活動も広報の一環なのです。現在は都内での保育園開設の準備もしています。保育士の資格を取る勉強もしていますが、将来は保育園業界に特化した会社を起こしたいと思っています」

――後輩へのメッセージをお願いします。

（藤野さん）「できる限り大きな目標を持つことですね。城西は中欧や東南アジアにつながりがあるので、短期でも長期でもいいので留学することを勧めたいです。自分にリミットをかけるのではなく、トライアル・アンド・エラーの精神で、目標を持っていろんなことをやってみることが大事だと思います」

（向坂さん）「今、社会人はこうあらねばならないという正解はないと思います。周りがこうだからでなく、自分の思った通りに恐れず、挑戦してみることが大切だと思います」

――好きな言葉はありますか?

（藤野さん）「『突き抜ける』です。一人のヒトがどこまで社会にプラスの影響を与えられるか、仕事・事業・趣味を通して挑戦し続けます」

（向坂さん）「『粋（いき）』という言葉が好きです。粋な人はなかなかいない。粋な大人になりたいです」

図書館だより

2019年度「館長のつどい」と2018年度「地域相互協力図書館合同研修会」を実施しました

城西大学水田記念図書館は近隣公共図書館（坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、越生町、日高市、飯能市）6館と提携・相互協力し、図書館員のスキルアップや各図書館のサービス向上を目的とした合同主催公開講座や合同研修会などを開催しています。3月28日の「クレーム対応などに関するさまざまな事例」をテーマとする合同研修会には昨年度より多い12名が参加し、各館の事例紹介を中心に活発な意見交換の場となりました＝**写真㊤**。また7月25日の館長のつどいでは、各館からの情報共有や2019年度の協力事業に関し、特色ある図書館づくりなどについて有意義な意見交換を行いました＝**写真㊦**。

学生アドバイザー企画「城西大学水田記念図書館の七夕」

6月24日～7月7日に学生アドバイザー企画「城西大学水田記念図書館の七夕」を開催しました。学生アドバイザーにより図書館入口ホールに七夕飾りが用意され、2年目の今年も学生のみなさんの願いが込められた短冊が次々に飾られました。同時に学生アバイザー企画「月壱おすすめ本」第1弾として「七夕」をテーマにした本の展示も行われました＝**写真**。

「学生選書2019 Part1」を開催しました

6月18日（火）に図書館で購入する図書を学生自身が選べる「学生選書2019 Part1」を開催しました。2011年後期から年2回開催していますが、今回は初めて学生アドバイザーが中心となり開催の宣伝や会場の飾り付けなどに運営協力した結果、74名の学生が参加し96冊の本が選ばれました＝**写真❶**。

今回の学生選書で選ばれた本は、7月～8月に「学生選書2019Part1 学生が選んだおすすめ本96冊」として選書した学生のコメントと共に展示・貸出を行いました＝**写真❷**。

❶

❷

図書館で、教員免許状更新講習の講義が開催されました

8月3日、2019年度城西大学教員免許状更新講習の講義「教育方法として図書館をどう活用するか? ―探究の実現に向けて」が図書館7Fラーニングコモンズエリアで開催されました。講義は本学教職課程センター助教の井田浩之先生が担当し＝**写真❶**、通常の図書館資料だけでなく電子黒板やパソコンなどラーニングコモンズの特性を生かした講義内容となりました。「図書館を使った授業をデザインする」という講習では当館司書もサポートとして参加し、図書館資料を用いたグループワークを行い＝**写真❷**、参加者からは「図書館の活用の幅が広がった」などの感想をいただきました。

❶

❷

展覧会開催報告

水田美術館では4月～8月に下記の展覧会を開催しました。開催中は関連企画として外部の講師をお招きしての講演会や学芸員によるギャラリートークを開催。また、フレッシュマンセミナーなど、授業見学でも美術館をご利用いただきました。

水田コレクション浮世絵展 役者絵（4月9日～27日）

大衆の人気を集める歌舞伎役者を描いた役者絵は、浮世絵の始まりから今日まで続く最も重要なジャンルです。本展では、鳥居派、勝川派、写楽、そして、幕末最大画派となった歌川派の作品を水田コレクションと所蔵品の中からご紹介し、役者絵の流れをご覧いただきました**=写真㋺**。

関連企画として、4月13日に国際浮世絵学会常任理事の新藤茂氏をお招きして水田三喜男記念館講堂で「役者絵の楽しみ方」と題した講演会を開催。役者絵の魅力やその楽しみ方を、ユーモアを交えながら分かりやすくお話しいただきました**=写真㋩**。

Art
美術館通信

2018年度収蔵 新収蔵品展Part1.《大江戸芝居年中行事》—明治の浮世絵にみる江戸の歌舞伎興行—（5月9日～6月8日）

2018年度に当館の新たな所蔵品となった作品をご紹介する第1弾。明治30（1897）年に制作された《大江戸芝居年中行事》26枚揃いのうち25枚を展示しました**=写真**。

江戸三座体制であったころの歌舞伎の世界を描いた本作は、明治半ばころより高まる江戸回顧の機運を背景に制作されました。明治期の鮮やかな浮世絵版画から当時の歌舞伎興行の様子に思いを馳せる展覧会となりました。

第4回めっけたさかど！デジタルフォトコンテスト入賞作品展（5月9日～7月6日）

本学がある坂戸市では、市内を撮影した写真のコンテストを行う「めっけたさかど！ デジタルフォトコンテスト」を2015年度より毎年行っています。

美術館では昨年度、地域貢献の一環として、2017年度入賞作品をパネルにして展示する展覧会を開催しました。そして、今年も2018年度入賞作品を紹介しました。「坂戸よさこい編」「いきいき坂戸部門」「自然・風景部門」に応募のあった中から合計38点の入賞作品を展示し、多くの方に坂戸市の魅力をお届けする機会となりました**=写真**。

ギャラリートークの様子

スライドトークの様子

授業見学の様子

2018年度収蔵 新収蔵品展Part2.楊洲周延《時代かゞみ》全点展示（6月11日～8月3日）

2018年度に当館の新たな所蔵品となった作品をご紹介する第2弾。楊洲周延による美人画の代表作《時代かゞみ》全53枚揃い（明治29～30年制作）を前期と後期に分けてご紹介しました。

本作は、南北朝時代から明治半ばまでの約500年間という長きにわたる日本の歴史を美人画と風俗図で紹介する内容で、各時代の女性の髪形やファッションが知られるだけでなく、彫りや摺りといった高度な木版画技術を垣間見られるのも特徴でした。ずらりと並ぶ華やかな美人たちをお楽しみいただきました。

モバイルミュージアム展示替え

大学近辺の文化財を身近に感じてもらうことを目的に、美術館所蔵の考古資料を学内各所に展示する「モバイルミュージアム」の第1弾が昨年10月に17号館（経営学部棟）1階エントランスに設置されました。今年の6月に展示資料が替わりました**=写真**。

エリア紹介

日高市

第29回 日高市民まつり

「笑顔と元気を未来へつなぐ 日高のまつり」をテーマに11月9日（土）と10日（日）に第29回日高市民まつり**=写真=**を、文化体育館「ひだかアリーナ」とその周辺をメイン会場に開催します。

実りの秋、食欲の秋に日高の特産品販売や味のコーナー、郷土芸能、市民による舞台発表、キャラクターショーなど子どもから大人まで楽しめる盛りだくさんの内容です。メインアリーナ、サブアリーナ、屋外の3カ所のステージでは市内で活動されている皆さんの日ごろの成果が披露されます。また、日高市のマスコットキャラクター「くりっかー・くりっぴー」に会えるイベントもあります。家族や友達をお誘い合わせの上、皆さんでお越しください。

また、日高市では、9月に市公式Instagramを開設し、写真や動画での魅力発信を始めました。市民まつりにお越しの際には、「#きてみて日高」「#hidakalife」のハッシュタグを付けて、ぜひ投稿してください。

問い合わせは、日高市民まつり実行委員会事務局（日高市役所産業振興課内=☎042-989-2111）。

毛呂山町

第26回 毛呂山町産業まつり

「第26回毛呂山町産業まつり」を11月16日（土）と17日（日）に開催します。町の特産品販売や地元商店による出店、関係団体によるステージイベントなど、年齢を問わず毛呂山町を一度に楽しめるイベントです**=写真**。

新鮮な農産物の販売や地元の飲食店による出店、各コーナーのイベントで、毛呂山町を『観て・食べて・買って』満喫してください。

会場は毛呂山総合公園（毛呂山町大谷木443）、開催時間は両日とも、午前10時から午後3時までです。無料駐車場、無料シャトルバスも運行します。

問い合わせは、毛呂山町産業まつり実行委員会事務局（毛呂山町役場産業振興課内=☎049-295-2112　内線214・215）。

東武線沿線情報

電車に乗ってSAITAMAプラチナルートを巡ろう！

東武鉄道と秩父鉄道では、11月30日（土）まで、「東武鉄道×秩父鉄道 SAITAMAプラチナルート乗車券」を発売しています。

この乗車券は、埼玉県が推奨する主要観光地である川越市・長瀞町・秩父市を結ぶ「SAITAMAプラチナルート」を満喫していただくことを目的に発売しており、東武鉄道東上線・越生線全線と秩父鉄道の寄居駅～三峰口駅間が1日乗り降り自由となる大変お得な乗車券です。

また、期間中には同乗車券を使用したお出かけをより楽しめるように、「東武鉄道×秩父鉄道SAITAMAプラチナルートスタンプラリー」を実施しています。スタンプ台を「SAITAMAプラチナルート」の駅や観光地に6カ所（川越駅観光案内所、小江戸蔵里、長瀞駅、寳登山神社、秩父駅、秩父神社）設置します。

全てのスタンプを集めると、達成賞として「東武鉄道×秩父鉄道オリジナルメモ帳」をプレゼントします。ぜひこの機会に様々な文化財や豊かな自然が散策できるSAITAMAプラチナルートへ、ご家族やご友人と一緒にお出かけください。

東武鉄道×秩父鉄道 SAITAMAプラチナルートスタンプラリー ポスター

東武鉄道×秩父鉄道 SAITAMAプラチナルート 乗車券

編集／学校法人城西大学 広報センター
発行／城西大学 総務部総務課　〒350-0295　埼玉県坂戸市けやき台1-1　TEL049-271-7712
2019年9月発行